

「開拓碑」「旭魂」

兵庫県三田市・旭開拓地

兵庫県南東部の三田市は、六甲山地の北側に位置し、神戸市と接している。人口は約二万人で、豊かな自然が残る田園都市である。戦後、7ヵ所の開拓地に開拓農協が設立された。そのうち、西北部の旭開拓地は、標高平均約190mの丘陵地帯にある。

有馬郡本庄村（現・三田市）にあった帝国飛行協会兵庫県第四滑空場（長坂滑空場、格納庫）が戦後、払い下げられた。藍村（同）にあった軍需工場に配属されていた隊員が中心となり、農工隊を組織し、45（昭和20）年10月、鋤入れを行った。46年に主として復員者、47年に満州開拓引揚者が入植し、合計31戸となった。

49年、旭開拓農協が設立された。入植地は89haに及ぶ緩傾斜の山林跡地で、56haの開畑を行った。当初は自家用野菜の他、換金作物として麦やナタネ、タバコなどを栽培したが、地力が無いため、安定した収入は得られなかった。酪農を取り入れ、堆肥の投入などで瘠せ地が沃土となった。

丘陵地で水資源に恵まれなかったが、54年に水利権の割愛を受けた。国費による建設工事で、ため池の拡張、水田造成を行い、稲作を導入したことにより、生活が安定してきた。

近くには、舞鶴若狭自動車道三田西インターチェンジがある。京阪神の大消費地を控え、水稲の他、酪農、肉用牛など多角的な営農を続けていける地区である。

65年、旭開拓農協は入植25周年を記念して、旭神社の敷地内に記念碑を建立した。自然石に彫られた碑銘は「開拓碑」（写真㊤）。脇の碑文石碑には「内に烈々たる開拓精神と外に不退転の決意を秘めて朝に星を戴き夕に月をふみ乏しき衣食に堪え日夜開墾に従事せり」と記されている。記念碑の隣に95年、入植50周年記念碑が建立された（同㊦）。碑銘は「旭魂」で、裏面には入植者、物故者の氏名が刻まれている。

- ・ 入植二十五周年記念碑
前面全体



背面全体



- 旭開拓入植五十周年記念碑
前面全体



- 旭神社鳥居
前面全体



・入植二十五周年記念碑碑文

碑 文

昭和二十年十月六日敗戦に伴う混迷と虚脱の中旧陸軍官庁の有志十八名は緊急食糧増産の使命を擔ひ地元本庄村役場の暖かき援助の下に此の地に開拓の鋤入れを行い引続き翌二十二年三月満州開拓団の同志十三名を迎え内に烈々たる開拓精神と外に不退転の決意を秘めて朝に星を戴き夕に月をふみ乏しき衣食に堪え日夜開墾に従事せり其の間離脱する者参加する者等幾多の変遷を経て脊薄なる耕土を沃土と化せしめたるは偏に酪農を主幹とせる営農経営の確立であった二十九年三月下流西野上地区住民の我等多年の懇望に應えた御理解により水利権の割愛を得又地元用地関係者の方々の絶大なる御援助等により国費による溜池拡張と水田造成なるや連年旱魃による作況の不安定は解消せられ総面積五十五町歩の全地区開拓事業は入植以来の困苦欠乏と幾多の試練にもめげず組合員協力一致鉄桶の団結の下に完成せり我等は更に近隣住民との調和に心を致し関係諸機関とも密接なる連繫を旨とし共存共栄の実を挙げん事を期すると共に慈に本開拓地の由来を記し碑を建立して永く子孫に伝え我等国土報恩の趣旨を解明して記念せんとす

昭和四十五年十月吉日

旭開拓農業協同組合組合員一同

